



設計趣旨

活気のあるまち、そのまちに住む人々と外部の人間の交流によって生まれるもの考える。

どのような空間であれば人々が集まってくるのか。私はそれを、他では経験し得ない、新しい体験ができる場所を提供することで実現できるのではないかと考えた。

江東区は18もの内部河川を持ち、江戸～昭和40年まで関東でも随一の水運都市であった。しかし戦後、陸上交通網の発達により次第に河川利用は低下、また地盤沈下による高潮被害のため、一時は護岸によって完全に人々の生活から切り離されるに至る。現在は川沿いに整備された散歩道にある掲示板によって、かつての水運都市の姿をわずかに匂わす程度である。

そこで、私はもう一度、河川と人間の生活が寄り添う舞台を創造したい。

提案するのは、「深川、情景の商店街」である。区の歴史を踏まえ、賑わいのある空間を提供するため、以下の二つを軸に計画する。

- (i) 水運の歴史を匂わす情景の道。
- (ii) 川に沿って軒を連ねる商店群。

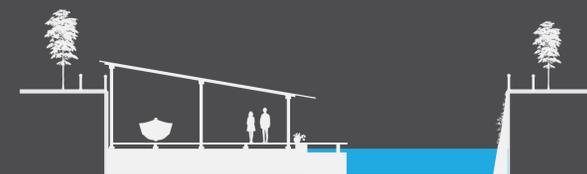
河川の片側半分を埋め立てて、川に面して、商店が軒を連ねる景観を作る。各商店は和風建築とし、趣のある情景の道として整備し憩いの場として提供する。

河川は江東区の観光名所、「東京都立現代美術館」「清澄庭園」を結ぶ仙台堀川1kmとし、近傍にある「深川江戸資料館」を含め区の観光施設群を形成し、観光客をもこの情景の道へ誘導する。

商店街の東西、および中央には船着場を設け、深川和船を運行する。清澄庭園側の敷地には和船資料館を設置。和船の保全・管理の施設であり、江東区の水運の歴史を展示する資料館でもある。



現在の河川の断面



(1) 和船資料館



(2) 親水広場

